



FOREX WEEKLY REPORT

2018年6月18日

(株)新生銀行 市場営業部
SFXM-1806187756

I. 先週の動き

通貨			東京市場			海外市場			終日	
			始値	安値	高値	安値	高値	終値	安値	高値
ドル円 高値 110.90 安値 109.31	6/11	月	109.32	109.31	110.03	109.85	110.12	110.04	109.31	110.12
	6/12	火	110.04	110.00	110.49	110.10	110.50	110.38	110.00	110.50
	6/13	水	110.37	110.34	110.69	110.27	110.85	110.34	110.27	110.85
	6/14	木	110.34	109.96	110.38	109.92	110.70	110.64	109.92	110.70
	6/15	金	110.63	110.46	110.90	110.39	110.84	110.63	110.39	110.90
ユーロ円 高値 130.35 安値 127.72	6/11	月	128.73	128.71	129.98	129.42	130.05	129.67	128.71	130.05
	6/12	火	129.67	129.51	130.02	129.58	130.27	129.63	129.51	130.27
	6/13	水	129.64	129.60	130.00	129.80	130.34	130.11	129.60	130.34
	6/14	木	130.11	129.83	130.16	127.93	130.35	127.98	127.93	130.35
	6/15	金	127.98	127.72	128.32	127.81	128.51	128.46	127.72	128.51
ユーロドル 高値 1.1853 安値 1.1543	6/11	月	1.1775	1.1771	1.1816	1.1775	1.1821	1.1783	1.1771	1.1821
	6/12	火	1.1784	1.1741	1.1785	1.1733	1.1809	1.1745	1.1733	1.1809
	6/13	水	1.1745	1.1731	1.1752	1.1725	1.1801	1.1791	1.1725	1.1801
	6/14	木	1.1791	1.1790	1.1817	1.1563	1.1853	1.1567	1.1563	1.1853
	6/15	金	1.1568	1.1546	1.1585	1.1543	1.1627	1.1610	1.1543	1.1627

◆先週の動き

【6/11】週明けのドル円は、前週末のG7首脳会議で通商政策を巡り米国とその他G7諸国との対立が鮮明となった事が嫌気され、シドニー時間に109.23(安値)まで下落して取引が始まるも、東京時間は一転、日経平均株価が堅調推移となる中クロス円の上昇に連れてドル円は徐々に値を上げ、欧州時間にかけて110円超えまで上伸。NY入り後は109円台後半まで緩む局面もあったが、その後はNYダウ平均株価の堅調推移も手伝いドルが買われる中110.12(高値)をつけ、高値圏で取引を終えた。週明けのユーロドルは、前週末にトリア伊財務相がEU離脱を否定(コリエレ紙)した事が好感されユーロが買われる中、シドニー時間につけた1.1753(安値)から東京時間に1.1800超えまで上昇。欧州時間には欧州主要株価の上昇も相俟り1.1821(高値)をつけたが、その後ユーロ買いは一服し1.17台後半まで緩んだ。NY時間にかけて独長期金利上昇とともに再度1.18台にのせる局面もあったが、NY後半にドル買い地合いとなる中、1.17台後半まで緩んで取引を終えた。

【6/12】ドル円は早朝につけた110.00がこの日の安値。早朝から大口のドル買いと思われるフローが先行した他、日経平均株価が前日比プラスで寄り付いた事も追い風に110.49まで上昇。史上初の米朝首脳会談ではトランプ米大統領と金委員長が「交渉進展を確認する文書に署名」(CNN)したものの、非核化の時期や手段を伴わない内容となった他、会談直前に「クドロー米NEC委員長が入院」と伝わるも「病状は良好」とホワイトハウスが発表し、いずれも為替市場の反応は限定的でドル円は欧州時間まで110円台前半で推移。NY時間にかけて発表された米5月消費者物価指数(前月比+0.2% / 予想+0.2%)は物価上昇継続が確認されたものの市場予想通りの結果であった事からドル円は反応薄。その後、FOMC後のFRB議長記者会見(現状、四半期に一度)について「パウエルFRB議長が全FOMCで記者会見検討」(WSJ)と報じられ利上げペースの加速が連想され為替市場はドル買いに傾斜、110.50(高値)をつけた。この日は110.35-40レベルと、200日移動平均線(110.21)を上回って引けた。ユーロドルは、東京時間早朝、米朝首脳会談直前のドル買い地合いの中1.17台後半から1.1741まで急落。欧州時間、トランプ大統領の記者会見ではドル売り、円売りのリスクオン地合いとなり1.1809(高値)まで上昇。ユーロ円も130.27(高値)まで上伸した。その後、NY前半まで概ね1.17台後半での推移となったものの、NY後半に前述の「全FOMCでのFRB議長記者会見を検討」との報道を契機にドル買いに傾斜し1.1733(安値)まで反落して引けた。

【6/13】東京時間は日経平均株価が堅調推移となる中、為替市場では円売りが優勢となりドル円は110円台前半から前日高値を超えて上昇し、欧州時間には110.70超えとなった。その後は一転してドル売り地合いとなる中、NY序盤にかけて110円台前半まで下落。米5月生産者物価指数は前日の消費者物価指数と同様に物価上昇加速が確認されたものの(前月比+0.5% / 予想+0.3%)為替市場の反応は限定的だった。注目のFOMCでは市場予想通りFF金利誘導目標を1.75-2.00%に0.25%引き上げた。一方で2018年の利上げ予測が合計4回へ増加し、更に声明文では「FF金利は今後しばらく中長期的に



有効となる水準を下回る可能性が高いと予想」との文言が削除された事がタカ派と捉えられ、米10年債利回りが一時3%超まで上昇する中、為替市場はドル買いに傾斜し110.85(高値)まで急騰。その後、パウエルFRB議長会見では「インフレが2%超えても過剰反応しない」とハト派な内容となった事、また「米政府、中国製品への関税を準備中」(WSJ)との報道を契機に米中貿易戦争懸念が再燃、為替市場は一転してドル売り地合いとなり110.27(安値)をつけて引けた。ドル円はFOMCを挟み上方向へ往って来いの展開となった。東京時間のユーロドルは概ね1.17台半ばで小動き。欧州入り後はドル売り地合いとなる中、NY序盤にかけて1.17台後半までじりじりと値を上げた。FOMC結果発表後にドル買い地合いとなり一時1.1725(安値)まで下落する局面もあったものの、上記WSJ報道を契機にドル急落となりユーロドルは1.1801(高値)まで上昇し引けた。

[6/14]ドル円は110.30-35レベルからスタート。東京時間は日経平均株価の下落や米長期金利低下を背景にドル円は下落し、欧州入り後に109.92(安値)をつけた。注目されていたECBではユーロが急落する中、主要通貨全般的にドル買いに傾斜。更に米5月小売売上高速報(前月比+0.8% / 予想+0.4%)や同輸入物価指数(前月比+0.6% / 予想+0.5%)がいずれも市場予想を上回り、ドル円はNY時間を通して上昇。110.70(高値)をつけ、高値圏で引けた。東京時間から欧州時間前半までのユーロドルは、1.17台後半から1.18台前半で小動き。注目のECBでは市場予想通り政策金利据え置きとなったものの、「10-12月は資産買入れ額を月150億ユーロに減額し、資産買入れを12月末で終了」とした事から瞬間的に1.1853(高値)まで上昇。しかし同時に「償還元本の再投資は資産買入れ終了後もかなりの期間継続」とし、また「政策金利は少なくとも2019年夏まで据え置き」とした事がハト派と捉えられ、独長期金利の低下と共にユーロは急落し、対ドルでは1.17台前半まで急落。更にドラギECB総裁の「利上げ時期の議論はしなかった」、「見通しに対し存在するリスク、過小評価したくない」との発言もハト派と捉えられ、為替市場ではユーロ売りが継続し、引け際に5/30以来の安値1.1563をつけた。ユーロ円は130.35(高値)から127.93(安値)までの大幅な下落となった。

[6/15]週末15日のドル円相場は、東京時間早朝に「トランプ米大統領、中国製品500億ドル相当への関税を承認」「中国が米国の関税の報復する準備」との報じられるも、4月にアナウンスされていた内容であった為、為替相場への影響は軽微で110円台後半での揉み合いとなった。迎えた日銀金融政策決定会合では、予想通り金融政策維持となったが、消費者物価指数の見方を下方修正したことを材料に市場では円売り優勢となり110.90(高値)まで上昇。しかし欧州時間に入ると「米国、中国製品1000億ドル相当の関税リスト第2弾ほぼ完成(ロイター)」との報道を受けドル売りに転じ、110.39(安値)まで反落。NY時間には、米6月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値(99.3/予想98.5)は予想を上回ったものの、「USTR、対中関税第1弾は7月6日開始」「中国、農産物や自動車製品対称の対米関税を7月6日発動」とのヘッドラインが相次ぐ中、110円台半ばで揉み合って引けた。ユーロドルは、前日のECBを受けたユーロ売りの流れを引き継ぎ、東京時間から欧州時間にかけて1.1543(安値)までじり安。しかしその後は米中貿易摩擦が意識され対ユーロでもドルが弱含み、1.16台を回復。「CSU、メルケル首相のCDUと連立解消と内部通達」との一部報道が伝わり1.1560まで下落する場面もあったものの、信憑性のないニュースであったことがわかるとすぐに1.16台まで買い戻された。NY時間には、再び米中貿易戦争懸念から全般的なドル売り地合いとなる中1.1627(高値)まで上昇し、1.16台を維持して引けた。

II. 今週の予想

通貨	今週予想		コメント
	安値	高値	
ドル/円	110.00	112.50	ややブル
ユーロ/円	125.95	131.00	レンジ
ユーロ/ドル	1.1450	1.1650	レンジ

◆今週の予想

今週のドル円は110.00~112.50のレンジを予想。

先週は米FOMC、ECB理事会、日銀金融政策決定会合等、各国の金融政策発表が相次いだ週であった。米FOMCでは市場予想通り利上げが実施された上に、年内の利上げ見通しが引き上げられた。また、ECB理事会では量的緩和を年内に終了するとの声明が発表されるも、政策金利の据え置き等の方針から結局はドル買いが優勢となり、週を通してドル円のレンジは1円程度引き上がったイメージで終了した。今週も先週の流れを引き継いで、ドル堅調の流れとなるだろう。

今週の注目材料は、18日~20日開催されるECBフォーラム、22日~23日に予定されるOPEC総会(非加盟産油国も参加する拡大会合)の2点を挙げたい。ECBフォーラムでは特に20日に行われる各国中銀代表(ドラギECB総裁、パウエルFRB議長、黒田日銀総裁、ロウ豪中銀総裁)らによるパネルディスカッションに注目。米国以外の3国は慎重姿勢が見込まれており、米国のタカ派な印象が一段と強調されればドル買いが強まるものと考えられる。またOPEC総会では原油減産の実施期間見直し等が検討される予定だが、OPEC内でも減産や原油価格に関する意見が対立している模様であり、どのような結論が出されるかに注目したい。その他要人発言や経済指標の発表も控えているものの、大きな影響を与えるほどではないと考えており、週半ばにはある程度今週のトレンドが見えてくるだろう。



Ⅲ. 経済指標カレンダー

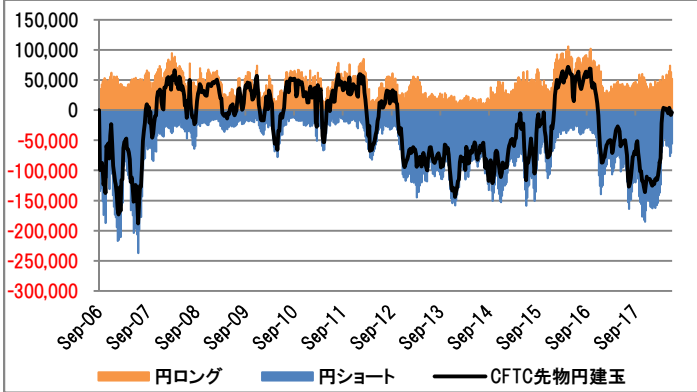
日付	時間	国	月	経済指標、要人発言
6月18日	中国・香港市場休場			
	ジョン・ウィリアムズ氏、NY連銀総裁に就任			
	21:45	米		ダドリー前NY連銀総裁、発言
	2:00	米		ボスティック・アトランタ連銀総裁、発言
	2:30	欧		ドラギECB総裁、発言
6月19日	4:45	米		ウィリアムズNY連銀総裁、発言
	10:30	豪		RBA議事録
	17:00	欧		ドラギECB総裁、発言
	17:30	欧		プラートECB専務理事、発言
	20:00	欧		レーンECB理事、ブラード・セントルイス連銀総裁、発言
6月20日	21:30	米	5月	住宅着工件数
	英中銀金融政策委員会(MPC、~21日)			
	8:50	日		日銀金融政策決定会合議事要旨(4/26・27)
	9:30	豪	5月	ウェストハック 景気先行指数(前月比)
	15:30	日		黒田日銀総裁、発言
	16:30	欧		ビルロフドガロー仏中銀総裁、発言
	17:00	欧		ラウテンシュレーガーECB専務理事、発言
	17:00	欧		ノボトニーECB理事、発言
	19:30	欧		クーレECB理事、発言
	20:00	米		MBA住宅ローン申請指数
6月21日	21:30	米	第1四半期	経常収支
	22:30	欧		ドラギECB総裁、パウエルFRB議長、黒田日銀総裁、ロウRBA総裁、発言
	23:00	米	5月	中古住宅販売件数
	米FRB、銀行ストレステストの結果を公表			
	ユーロ圏財務相会合(ユーログループ)			
6月22日	10:30	日		布野日銀審議委員、発言
	18:45	欧		バイトマン独中銀総裁、発言
	20:00	英		英中銀政策金利
	21:30	米		新規失業保険申請件数
	21:30	米	6月	フィラデルフィア連銀景況
	22:00	米	4月	FHFA住宅価格指数(前月比)
	22:30	欧		ノボトニーECB理事、発言
	23:00	米	5月	景気先行指数
	23:00	欧	6月 速報値	消費者信頼感
	5:15	英		カーニーBOE総裁、発言
6月24日	EU財務相理事会			
	OPEC総会(ウィーン)			
	8:30	日	5月	全国CPI(前年比)
	16:30	独	6月 速報値	マークイット/BMEドイツ製造業PMI
	17:00	欧	6月 速報値	マークイット ユーロ圏製造業PMI
	17:00	欧	6月 速報値	マークイット ユーロ圏コンポジットPMI
	21:30	加	4月	小売売上高(前月比)
	21:30	加	5月	CPI(前年比)
	22:45	米	6月 速報値	マークイット米国製造業PMI
6月24日	トルコ大統領選挙、総選挙			



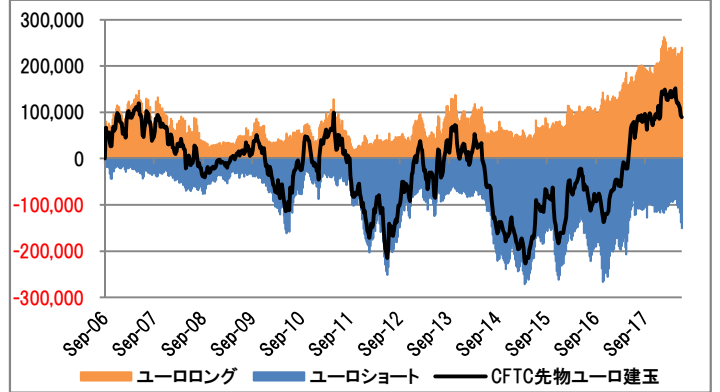
IV. IMM投機勘定

- ★ IMM投機勘定とは？IMM(シカゴマーカンタイル取引所内にある国際通貨取引部門)投機筋のポジション建て玉。
- ★「買い越し」(ネットロング)ポジションが過剰になると相場が天井を示し下落する可能性が高いといわれています。
- ★「売り越し」(ネットショート)ポジションが過剰になると相場が底を示し上昇する可能性が高いといわれています。

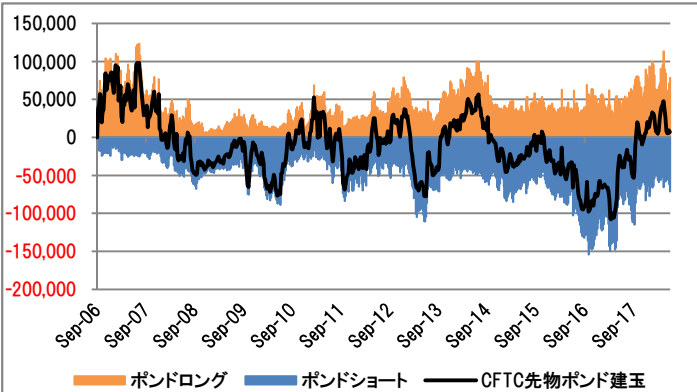
6/12 5,052
 6/5 -3,437
 1コントラクト=1枚
 JPY 12,500,000



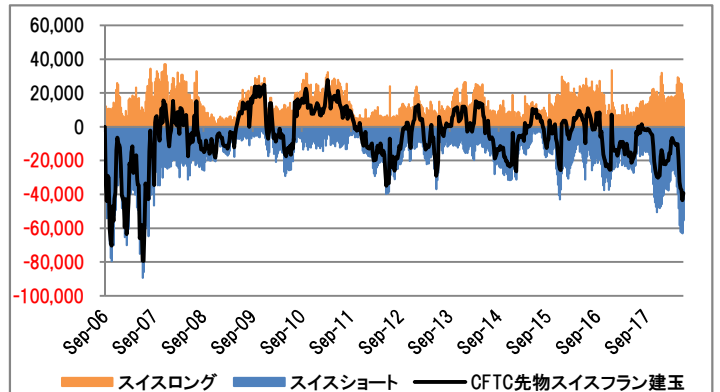
6/12 88,225
 6/5 89,236
 1コントラクト=1枚
 EUR 125,000.00



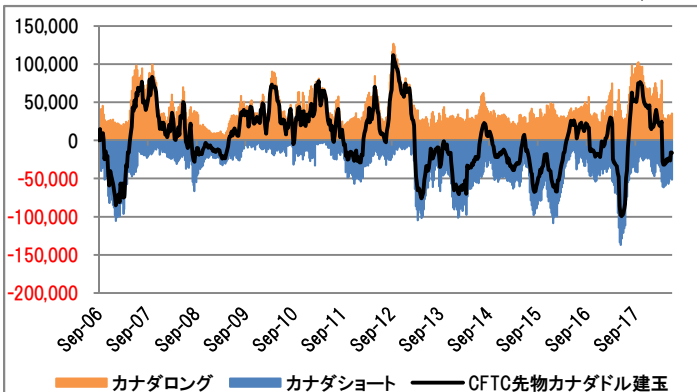
6/12 10,969
 6/5 7,345
 1コントラクト=1枚
 GBP 62,500.00



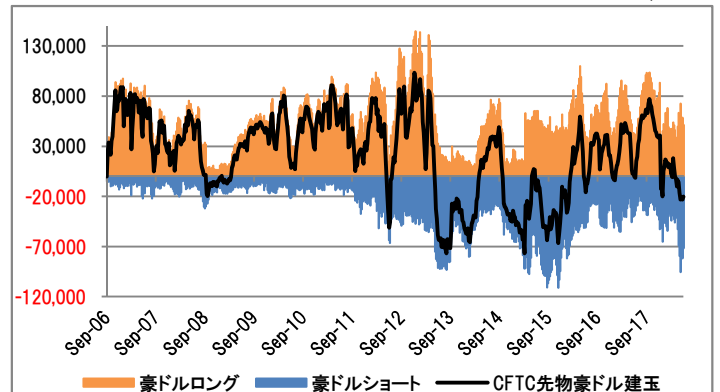
6/12 -37,245
 6/5 -39,216
 1コントラクト=1枚
 CHF 125,000.00



6/12 -14,988
 6/5 -16,039
 1コントラクト=1枚
 CAD 100,000.00



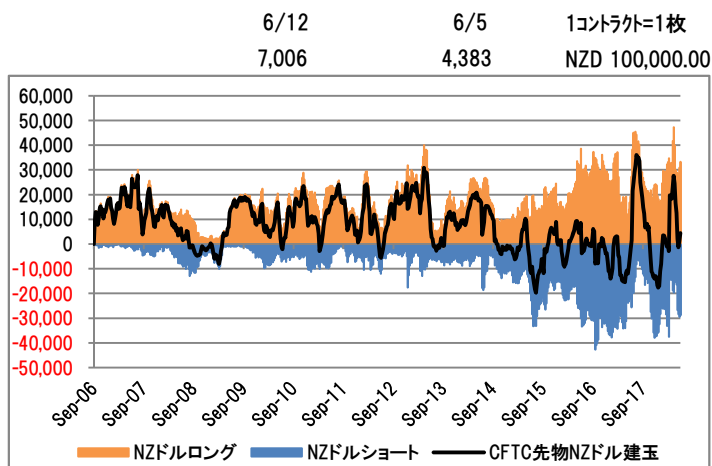
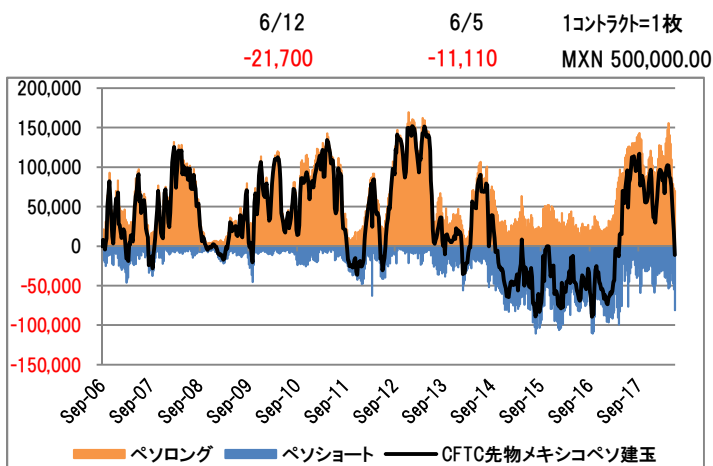
6/12 -15,235
 6/5 -20,208
 1コントラクト=1枚
 AUD 100,000.00



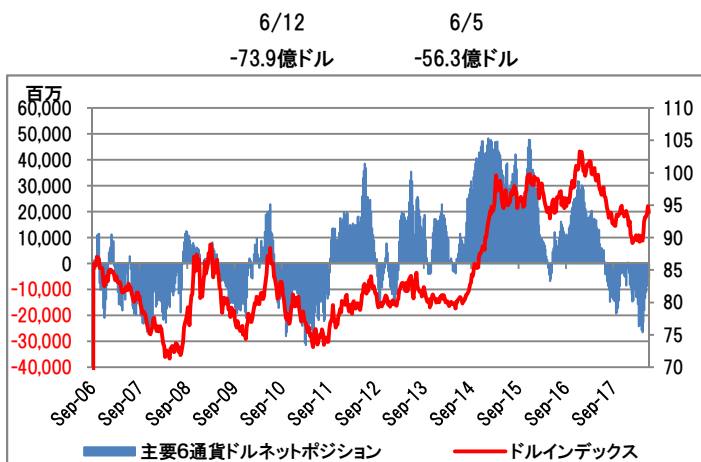


IV. IMM投機勘定

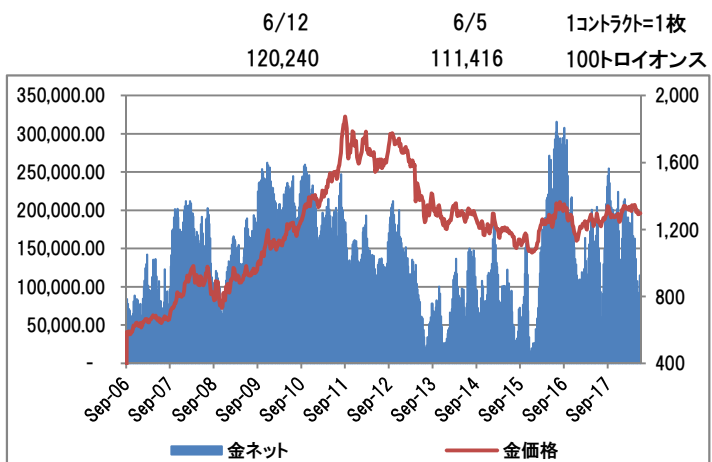
- ★ IMM投機勘定とは？IMM(シカゴマーカンタイル取引所内にある国際通貨取引部門)投機筋のポジション建て玉。
- ★「買い越し」(ネットロング)ポジションが過剰になると相場が天井を示し下落する可能性が高いといわれています。
- ★「売り越し」(ネットショート)ポジションが過剰になると相場が底を示し上昇する可能性が高いといわれています。



★対8通貨のドルネットポジションとドルインデックス



★COMEX金投機筋ネットポジションと金価格の推移



- ・この資料の無断での複製、転写、転載、改竄または配布は、禁止されています。
- ・この資料は、情報の提供を唯一の目的としたもので、特定の金融商品取引の投資勧誘・奨励を目的としたものではありません。
- ・金融商品取引を検討される場合には、別途当該金融商品の資料を良くお読みいただき、充分にご理解されたうえで、ご自身の判断と責任においてお取引をなさるようお願いいたします。
- ・金融商品によっては所定の手数料等をご負担いただく場合があります、また金融商品によっては証拠金や担保をご提供いただく場合があります。なお、具体的な金融商品が定まっていないため、現時点では手数料・証拠金・担保等の額または計算方法およびその比率をお示しすることはできません。
- ・金融商品によっては、金利水準、為替相場、株式相場等の金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により、お客様に損失が生じることがあり、またこの損失がお客様からご提供いただいた証拠金・担保(もしあれば)の額を上回るおそれがあります。
- ・商号等/株式会社新生銀行 登録金融機関/関東財務局長(登金)第10号
加入協会/日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会